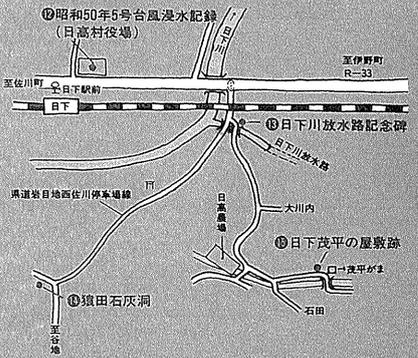
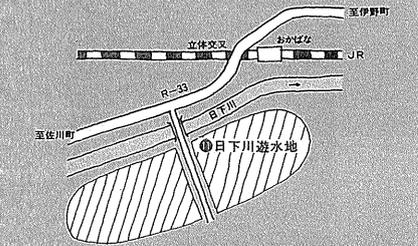
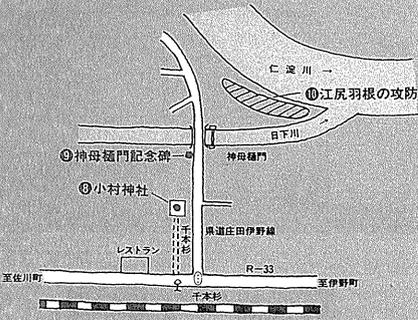
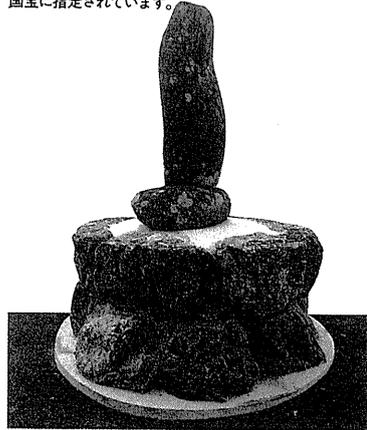


HIDAKA



⑧ 小村神社

小村神社は、土佐神社について土佐国の二の宮といわれ、用明天皇2年(586)に創建されたと伝えられています。祭神は固常立命。古くは小村大神などよばれていました。社殿は通称千本杉といわれる長い杉並木の奥にあり、神体である金銅狂環頭大刀は古墳時代後期の作で、国宝に指定されています。



⑨ 神母権門記念碑

明治20年(1887)に完成した自動扉仕掛けの水門が、25年後の明治44年(1911)8月の大洪水で崩壊閉塞しました。このため加茂村と竜田村が協議して、耕地整理組合を組織し、3年後の大正3年(1914)に巨額を投じ権門の永久工事を完成させました。現在、当時の権門は残されていませんが、この事を記念した石碑が建てられています。

⑩ 江尻羽根の攻防

江尻羽根の修築に関しては長い年月、幾度も大水と人間の攻防が繰り返されました。享保年間(1716~1736)背割堤ともいう一時的羽根を仁淀川に設け、宝暦8年(1758)には永久的築造とし、天明4年(1784)には羽根70間を延長したところ、大洪水に見事な効果を発揮しました。しかし以後も幾度もなく流失し、そして修築、まるで洪水とのイタチごっこが続けられました。



⑪ 日下茂平の屋敷跡

茂平は藩政のころのえび日下といわれた豪が許されず、悲観救われ、その天狗かっています。盗んだ金あり、なかなか人気か



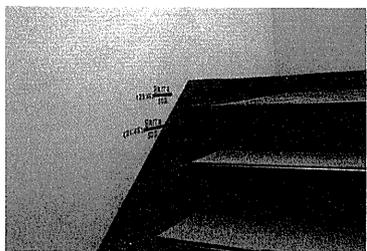
⑫ 鎌田用水路

伊野町波川国道33号用水隧道の出口に碑を建て現在でも水勢を弱めています。野中兼山ですが、当時それを引ることができなかった



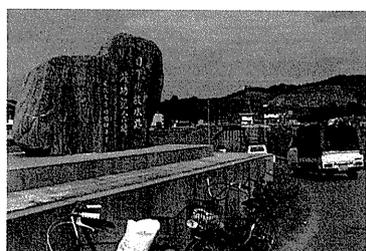
⑬ 日下川遊水池

日高村、国道33号線の立体交差を西へ越すと、南側一帯に湿地帯が広がっています。このあたりは年間平均雨量2600mmの多雨地帯であり、しかも低地。昔から雨が降るとすぐ浸水する所なので、明治時代に稲作の出来ないこの地で稲作の栽培が始められ、その名残りで今でも一面に稲作が残っています。現在高知県の手により遊水池として、整備されています。



⑭ 昭和50年5号台風浸水記録(日高村役場)

昭和50年8月17日、台風5号は宿毛市付近に上陸、中心が伊予灘に抜けた昼ごろから、仁淀川中流域一帯は豪雨に見舞われました。日下川流域でも日高村全域にわたって浸水し、多大な被害を受けました。今も日高村役場の階段には、その浸水のすごさを物語る、日時・浸水位置などの貴重な記録が職員の手によって書き残されています。



⑮ 日下川放水路記念碑

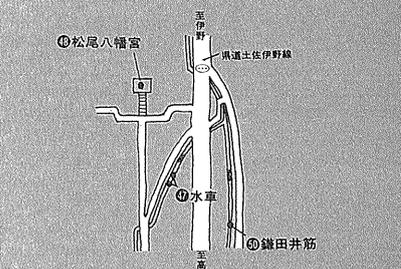
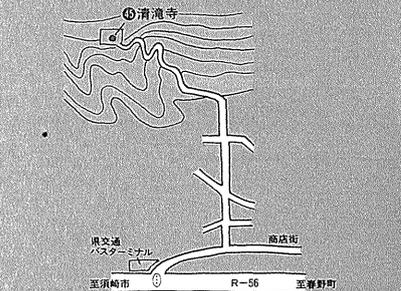
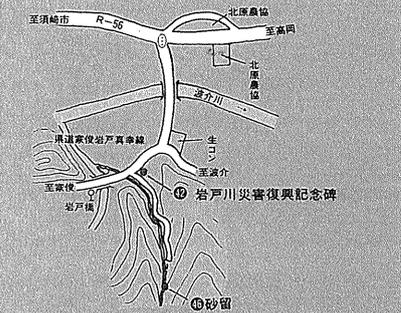
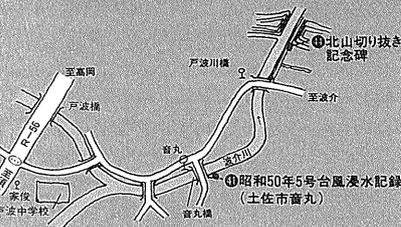
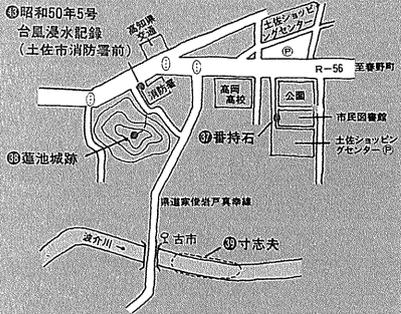
昭和50年台風5号の災害に対して、建設省直轄の「激特事業」として建設されたのが日下川放水路です。放水路トンネルとしては我国最大級のもので、古くから「嫁にやるとも日下にやんな、娃が小便すりゃ早やつかる」と言われている日高村にとって、悩まされつづけた内水被害の軽減に大きな役割を果たしています。



⑯ 安蕃城跡

伊野町波川の西南端ような山があります。名城といわれる。波川長宗我部元親の妹婿を命ぜられ、その一筋頂にはNHKのテレビ

TOSA



⑦番持石

番持石は、用石北山の小野坂あたりにあった10坪ほどの空地で、地元の青年達が力自慢に番持ちをやっていた石で約80kgあります。石の表面には『奉 建立 為流死亡者菩提文政12年(※1829)己丑3月24日 世話人 用石村、中島村』と書かれており、洪水で流死した人の供養塔の一部であったものと思われます。



⑧蓮池城跡

高岡の市街地西部の丘の上にある中世の城跡で、築城年代は不明ですが、『吾妻鏡』に見られる蓮池家綱の城であったといわれ、後に大平氏、一条氏、本山氏らの手を経て、永禄11年(1568)吉良氏の居城となりました。現在は公園となり、その遺構の跡はとどめていませんが、市民の憩いの場として親しまれています。



④寸志夫

寸志夫とは、村の人々が自発的に無賃で工事に出入することをいいます。天保年間(1830~1844)に窪地5ヶ村の村民が、水吐けをよくするため波介川の川床を掘り下げる工事を寸志夫でやりましたが、滞水に苦しんだ人たちが自発的に立ち上がった貴重な記録といえます。

「坊さん かんざし 買うをみた」と歌われているヨサコイ節の主人公は、五台山南の坊の純信、そして、山のふもとに住む十七才の美女大野うまの二人。二〇才も歳の違う二人が出合い、そして熱い恋に燃えました。安政二年(一八五五)五月二人は手に手を取って駆け落ちをしましたが、讃岐琴平神社一ノ坂の高知屋で捕えられ、その後うまは須崎へ追放。純信は藩外追放となり消息は伝えられていません。この二人の悲恋はアメリカニュージャーシー州の小学校の音楽の教科書にも採録されています。純信の生地であるこの地の有志は純信堂を建立し、純信の霊をなぐさめています。

④純信堂



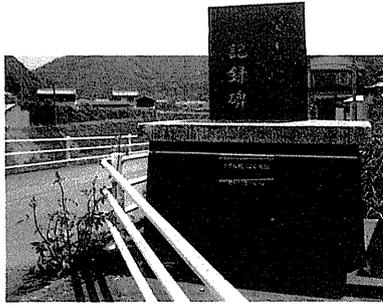
④昭和50年5号
昭和50年8月グラムから仁淀川中流域一帯崩れ、天崎・末光の山崩れました。首丸の浸水物語っています。



④北山切り抜き
波介、戸波地域は、波川仁淀川の逆流により、明治44年(1911)県理組合が発足、戸波城山を貫通、江良沼15mは、今も時代を超えています。

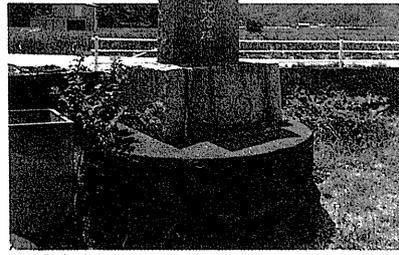


流域史蹟ガイド 仁淀川・物部川・高知



⑬ 昭和50年5号台風浸水記録(土佐市音丸)

昭和50年8月グアム島付近で発生した台風5号は、8月17日午前8時50分宿毛市に上陸。中心が伊予灘に抜けた屋ごろから仁淀川中流域一帯は豪雨に見舞われました。ここ土佐市でも1時間雨量117mm・24時間雨量550mmを記録し、鳴川の山崩れ、天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊などの他、市内一円に亘って河川の氾濫による濁流で浸水、泥海のようになりました。音丸の浸水記録碑・岩戸川災害復興記念碑・高岡消防署前の浸水記録碑などが、この台風の被害の大きさを物語っています。



⑭ 岩戸川災害復興記念碑



⑮ 昭和50年5号台風浸水記録(土佐市消防署前)



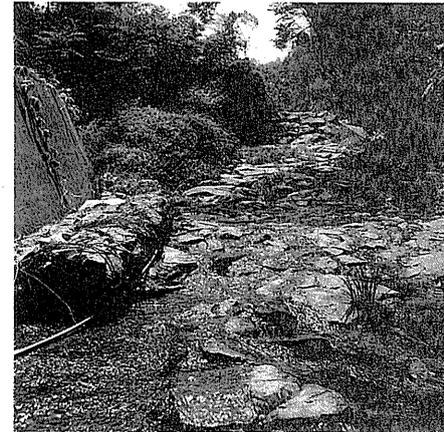
⑯ 北山切り抜き記念碑

波介、戸波地域は、波介川の排水能力の悪さに加えて本川に淀川の逆流により、古来滞水の被害に苦しみ続けました。明治44年(1911)関係地主らの手で、波介戸波耕地整理組合が発足。戸波城跡の南を迂回する波介川を変じて北山を貫通、江良沼15町歩を干拓。その雄大な構想!実施は、今も時代を越えて偉大な人間の迫力を感じさせてくれます。



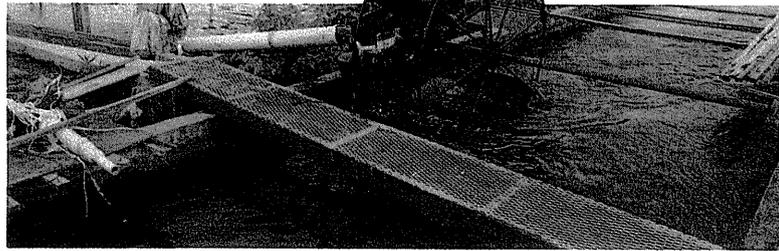
⑰ 清濁寺

清濁寺は、養老7年(723)行基が開創したと伝えられる真言宗豊山派の寺で、本尊は薬師如来。高岡のお大師さんと親しまれている四国霊場八十八ヶ所の35番札所です。寺号は、空海が突いた金剛杖の跡から清水が湧き出し、鏡のような池になったことに由来するといわれ、平安後期の作といわれる本尊の薬師如来立像は、国の重要文化財に指定されています。



⑱ 砂留

砂留とは溪流の水害を防ぐために、割石でもって流れに逆うことなく、川床と側壁を包む工法のことです。護岸と砂防を兼ねさせたものです。江戸時代には、出間、用石、塚地、浅井、市野々、永野、宮内などに築かれていました。これらの砂留も昭和50年の台風5号で跡かたもなくなったものもありますが、岩戸の砂留は今でも、激流から村を守っています。



⑲ 水車

谷間でコットン、コットンとリズムを伝えた米搗き水車も今では懐しく、山村でもその風景があまり見られなくなりました。しかし今でも鎌田井筋の土佐市内で3ヶ所、弘岡井筋で1ヶ所の灌溉用水車が残されており、昔ながらの風情で水を汲み上げています。



⑳ 松尾八幡宮

松尾八幡宮は、平城天皇の第3皇子高岳親王が京都の岩清水八幡宮をこの地に勧請し創建したものと伝えられ、祭神は足仲津彦尊・息長足媛尊・品陀和氣尊。天文17年(1548)に藤原有定らが社殿を修築しました。明治時代に入り、清濁寺を分離し、八幡宮の本地仏3体は清濁寺に祀られています。



㉑ 天崎堤防の桜並木

以前この天崎堤防に桜並木があり、春には満開の桜の花が人々の目を楽ませていました。しかし台風の風により桜の木が倒れ、堤防に地割れなどができたために、現在は切り取られて無くなっています。



㉒ 鎌田井筋

古い歴史をもって高東平野を一大沃野とした偉大な功労者がこの鎌田井筋です。野中兼山はこの鎌田井筋の他、八田堰より弘岡井筋・物部川の山田堰より上井川・中井川・舟入川など10余の用水路を建設し、約75000石の新田を開発しました。これにより土佐藩24万石の石高は実質30万石以上になりました。

流域史蹟ガイド 仁淀川・物部川・高知



て強化した堤防が工事完の豪雨により、野田川、決壊しました。堤防は書は新居、宇佐両地区を、特に高石村中島では流事となりました。



工事薄淵増己氏の筆によ与氏)が建てられています。建設、湿地帯の耕地整理、二造りかえた2人の燃えるたまたまた2人に続く者を



山に、戦国期の新居城跡がりませんが、地元では寺氏に攻め落されたと伝え公園となり、付近には城・北の丸の小字が残って



⑨ 新居海岸

今から1100年余の昔、平城天皇の第3皇子高岳親王が弘法大師に帰依し、仏法を求めて唐国に行く途中、風波に遭遇して漂着したといわれるのがこの新居海岸です。仁淀川の名前の由来には定説はありませんが、この時高岳親王が川の様相が淀川に似ていると言ったことが、似淀川となり今の仁淀川となったという伝承があります。



⑩ 土佐節発祥地

土佐土産産節の発祥は、宇佐浦(土佐市宇佐)の亀蔵という人が肥州人から技術を学んで作り始め、以後興隆したといわれています。近世初期になると、宇佐と土佐清水の二大産地が中心となり、土佐の各浦々で生産されはじめ、上方への販売、また幕府への献上品や大名への贈答品として、土佐節は広く珍重されるようになりました。

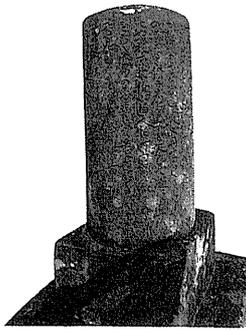
⑪ 震災復興記念碑

宇佐町市場前の県道沿にあり、昭和21年12月21日に勃発した南海大地震の概要が記されています。この地震は全県的に震度5の強震。死者679人、負傷者1836人、被害総額は30億円を超え、宇佐町では満潮時約5mの高潮が押し寄せ、町全体が海原になりました。

青竜寺は、弘仁元年(八一〇)空海が開基したと伝えられる真言宗豊山派の寺で、本尊は不動明王。竜のお不動様と親しまれている。四国霊場八十八ヶ所の三六番札所です。寺号は、空海の師恵果のいた中国長安の青竜寺の名をそのまま命名したといわれ、鎌倉期の作とされる愛染明王坐像は、国の重要文化財に指定されています。

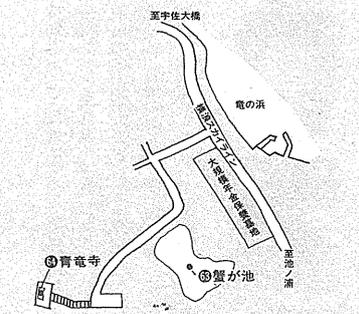
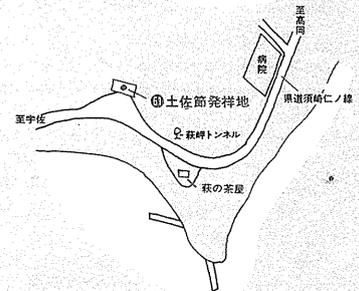
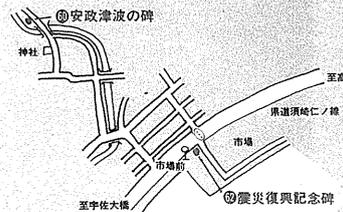


⑫ 青竜寺



⑬ 安政津波の碑

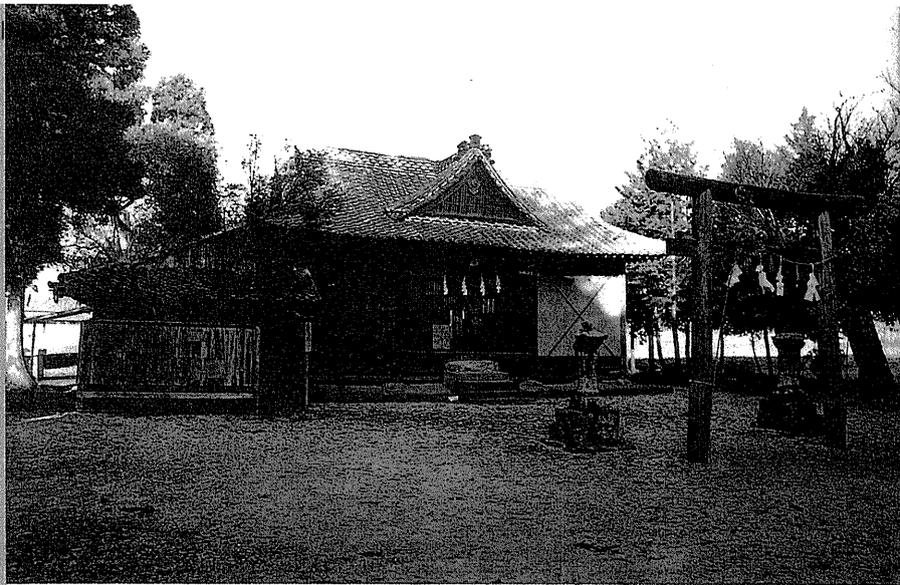
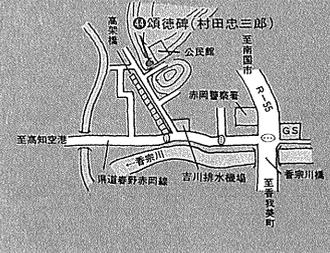
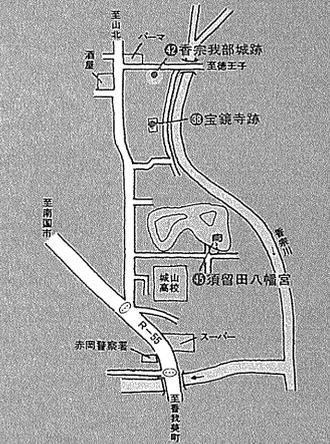
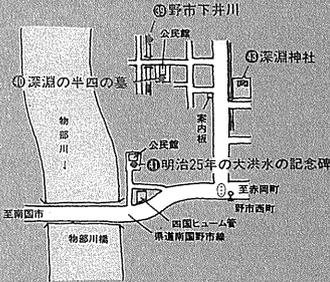
安政元年(1854)11月5日午後5時頃大地震が襲いました。8・9度の津波に見舞われた宇佐町は、死者70余人、残った家はわずか6・70軒。この碑には後世への戒めとして「この時山を目当てに逃れしものは皆命を助かる。船に乗り難を避れんとせし者は溺死多し、沖より波来るのみにあらず、海近き土地は下より汐出すもの也」と記されています。



⑭ 蟹が池

蟹が池は、約3haの沼状の池で竜の池・七葉の池とも呼ばれ、ベッコウトンボの生息確認地として知られています。この池にまつわる伝説として、青竜寺ができた昔、八人の天女が天降り一夜で撮ったといわれています。また池の主として墨四丈半も六丈もある大きな蟹が住んでいるとの説があり、色々な奇怪な話が伝えられ池の名の由来にもなっています。池の東には横浪大規模年金保養基地があります。





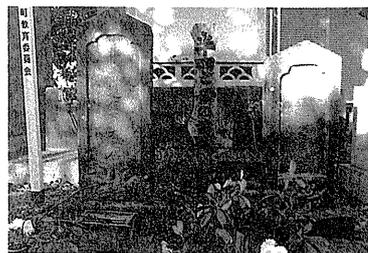
⑧ 深淵神社

深淵神社は、物部川の左岸、野市町西野と深淵の境にある通称十善寺に鎮座する神社です。勧請年代は不明ですが古くは深淵権現ともよばれ、深淵村にありました。しかし物部川の洪水で社殿が流失したため、寛文年間（一六六一～一六七三）にこの十善寺に移して再建されたと伝えられています。



⑨ 野市下井川

野市下井は、野中兼山が作った最後の水路だといわれ、寛文4年（1664）に完成しました。兼山は、初めは野市上井川だけで野市全域を灌漑する計画でしたが、上井川だけでは下流の下井地区が水不足になるので、それを補うために作ったといわれ、この野市下井により新田230haを開発しました。



⑩ 深淵の半四の墓

半四は江戸時代初期の人といわれ、どくれ者でしたが、人の心情をくすぐるユーモアのある明るく愉快な男で、その意表をつく行動は今でも「鎌をどく」などの逸話となって伝えられています。土佐には半四に似た「どくれ」が他にも何人かいますが、年代的にも一番古く、半四は「どくれ」の元祖ともいえます。



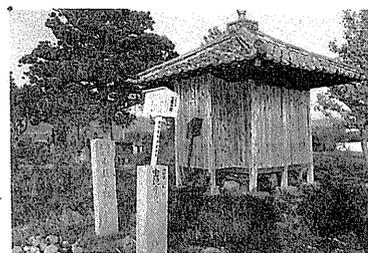
⑪ 明治25年の大洪水の記念碑

明治25年（1892）7月23日に高知市付近に上陸した台風により物部川流域も大きな被害をうけました。23日から26日まで4日間続いた雨で物部川は増水し、特に左岸の深淵方面の被害が大きく、深淵神社が流されそうになり、氏子総動員で現在地に移転したといわれています。この記念碑にはその洪水の事が刻みこまれています。



⑫ 香宗我部城跡

香宗我部城は、野市町土居にある中世の城跡で築城年代は不明ですが、中世から戦国期の土佐の有力な豪族である香宗我部氏代々の居城でした。大永6年（1526）香宗我部親秀の時代に安芸氏に攻められ、親秀の子秀義が戦死しましたが、長宗我部元親の弟親泰を養子に迎え危機を脱し、それ以後長宗我部氏と運命をともにしました。



⑬ 宝鏡寺跡

宝鏡寺は香宗我部氏の菩提寺として野市町土居のこの地にあった寺で、開創年代は不明ですが文禄元年（1592）に没した香宗我部親泰が開基したと伝えられています。明治4年（1871）に廃寺となり、現在は観音堂・祇園社を残すだけになっていますが、観音堂の付近には香宗我部氏歴代の墓や重臣たちの墓があります。

YOSHI KAWA

⑭ 頌徳碑（村田忠三郎）

忠三郎（1840～1865）は、郷士の村田新十郎寛重の次男として生まれ、剣を江戸の千葉重太郎に学んだのち、兄とともに武市瑞山ひさる土佐勤王党に加盟しました。その後同志とともに江戸に出て山内容堂の側役などを勤めましたが、勤王党の弾圧により投獄され藩吏井上佐市郎殺害の罪で慶応元年（1865）に処刑されました。



AI OI

⑮ 須留田八幡宮
須留田八幡宮は、赤井現在ある社殿は文化4修を加えたものだといわれた町絵師金蔵（絵金でも7月14日の夏祭り）に並べられています。



⑯ 安政地震の碑
安政元年（1854）11月、波によって、宇佐町などでは皆山へ逃げずて死写真は飛鳥神社の境内子や、津波の時の教訓を記しています。



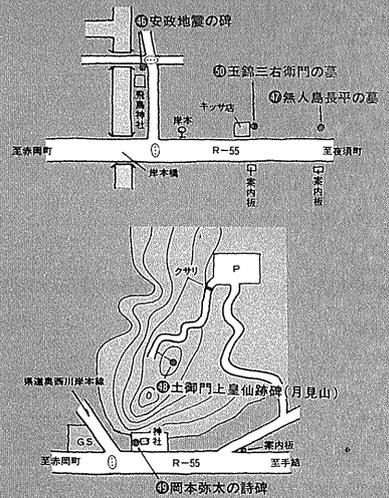
⑰ 土御門上皇仙
承久の乱（1221）の後、皇が、阿波の国へ移る休憩し月見をしたと伝わりの名のしみて、こゆの誓いをなぐさめたといどもの森として整備さ

流域史蹟ガイド 仁淀川・物部川・高知

AKA OKA

⑮ 須留田八幡宮

須留田八幡宮は、赤岡町の北部須留田山にある神社で、現在ある社殿は文化4年(1807)に再建され、それ以後補修を加えたものだとされます。また幕末に赤岡に滞在した町絵師金蔵(絵金)の芝居絵が奉納されており、現在でも7月14日の夏祭りの宵宮には、境内や赤岡町本町通りに並べられています。



⑯ 安政地震の碑

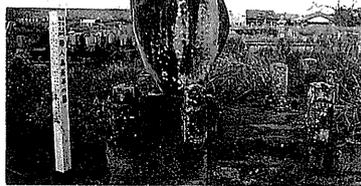
安政元年(1854)11月5日に大地震があり、その時の津波によって、宇佐町などは死者70余人を出しましたが、ここでは皆山へ逃げて死傷者はなかったといわれています。写真は飛鳥神社の境内にある石碑ですが、地震の時の様子や、津波の時の教訓などが碑文として細かく刻み込まれています。



⑰ 土御門上皇仙跡碑(月見山)

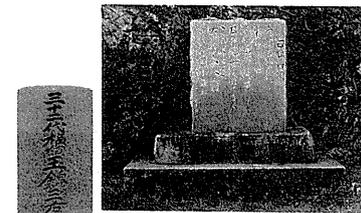
承久の乱(1221)の後、土佐国幡多に配流された土御門上皇が、阿波の国へ移ることになり、その旅の途中この地で休憩し月見をしたと伝えられます。その時「鏡野やたが偽りの名のしみて、こゆる都の影もうつらず」の歌をよみ旅の憂いをなぐさめたとされます。現在この月見山は、こどもの森として整備されています。

KAGAMI



⑱ 無人島長平の墓

長平は、香美郡岸本の舟乗りで、天明5年(1785)に奈半利から帰る途中暴風のため難波し、14日間の漂流の後、無人島に漂着しました。初めは5人いた仲間もつぎつぎに死んで長平だけになりましたが、その後漂着した人と協力して小舟を作り無人島を脱出しました。岸本に帰ったのは13年目の寛政10年(1798)だといわれています。



⑲ 岡本弥太の詩碑

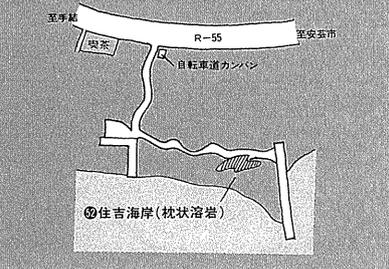
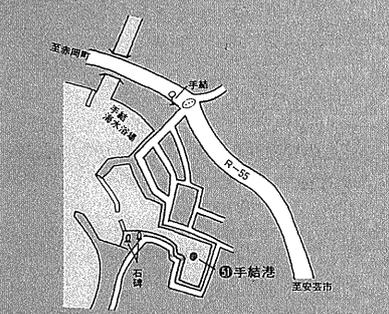
岡本弥太(1899~1942)は宮沢賢治と並び称される詩人。高知商業学校を卒業後、神戸の鈴木商店に勤めましたが、25歳のときに高知に帰り小学校の代用教員になりました。詩作は神戸にいた時に始め、その後昭和初期の日本詩壇で活躍しました。昭和7年に発刊された詩集「龍」の中の詩「白牡丹園」が月見山のみもとに高村光太郎の書で刻まれています。

⑳ 玉錦三右衛門の墓

玉錦(1903~1938)は土佐の生んだ初の横綱。大正8年(1919)二所ノ関部屋から初土俵を踏み、はじめはボロ錦、ドロ錦などといわれていましたが、生来の負けん気と熱心な稽古で横綱の栄冠を手中にしました。幕内通算9回優勝(横綱になってから4回)しましたが昭和13年に急性盲腸炎のため現役横綱のまま36歳の生涯を閉じました。

㉑ 手結港

手結港は、わか国最初の掘り込み港として野中兼山が計画し、慶安3年(1650)に試掘をおこない、承応2年(1653)に完成したといわれています。兼山は港口が砂浜なので、防砂堤を築造し漂砂から守るように設計しましたが、明治年間の手結港改修の時にこれを無視して防砂堤を短くしたため、港口はたちまち砂で埋められました。



中世の城跡で築城年代土佐の有力な豪族で、大永6年(1526)香宗られ、親秀の子秀義が弟親泰を養子に迎え危運命をともにしました。

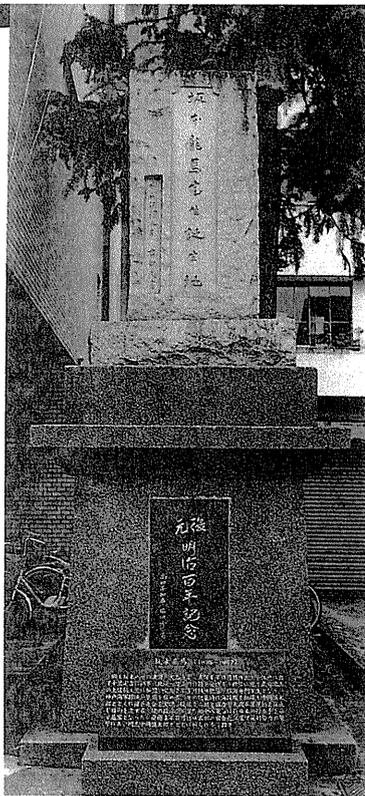


YASU



㉒ 住吉海岸(枕状溶岩)

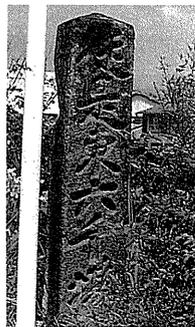
この住吉海岸には、約3000km離れた赤道付近の海底で作られた枕状溶岩があります。この溶岩は1億3000万年前に噴き出して、海洋プレートの運動により年間数cmの割で3000kmを運ばれ、ここにたどり着いたものです。このような枕状溶岩は各地にあります、その1つがこの住吉海岸にある枕状溶岩です。



坂本龍馬誕生地

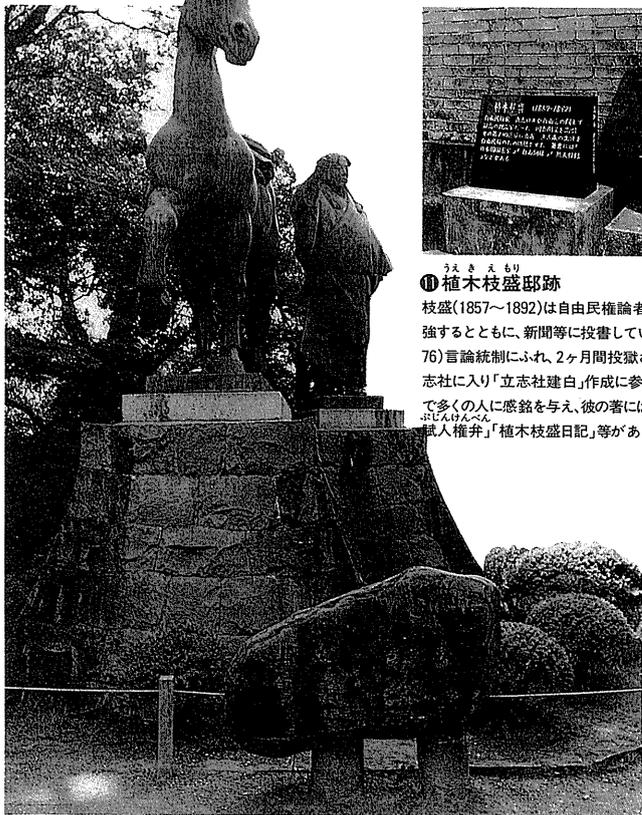
幕末の志士、坂本龍馬(1835~1867)の生家は上町病院のところにありました。坂本家は郷土株を取得して豪商才谷屋から分家したもので、今の碑のある付近の歩道を含んで裏は水道町に及び広い屋敷だったそうです。龍馬は気弱で泣き虫な子でしたが日根野道場で剣の修行をするうちに、みちがえるような青年に成長しました。そして土佐勤王党に加わり、文久2年(1862)土佐を脱藩したのち亀山社中を組織し、その後海援隊長となりました。その頃に書いた船中八策は有名です。慶応3年(1867)京都の定宿近江屋で刺客に襲われ33才の生涯を閉じました。

高知市の中心、古くは大高坂氏の居城のあった大高坂山にあり、慶長六年(一六〇一)山内一豊が百々越前を総奉行に任命し築城しました。この城は、はじめ河中山城と名付けられましたが、たびたび水害を受けたため、二代藩主忠義が竹林寺の空鏡上人の進言を入れ、高智山と改め、それ以後高知と呼ばれるようになったといわれます。現在の高知城は享保二年(一七二七)の大火により追手門を除き焼失し、宝暦三年(一七五三)に再建されたものです。



水丁場

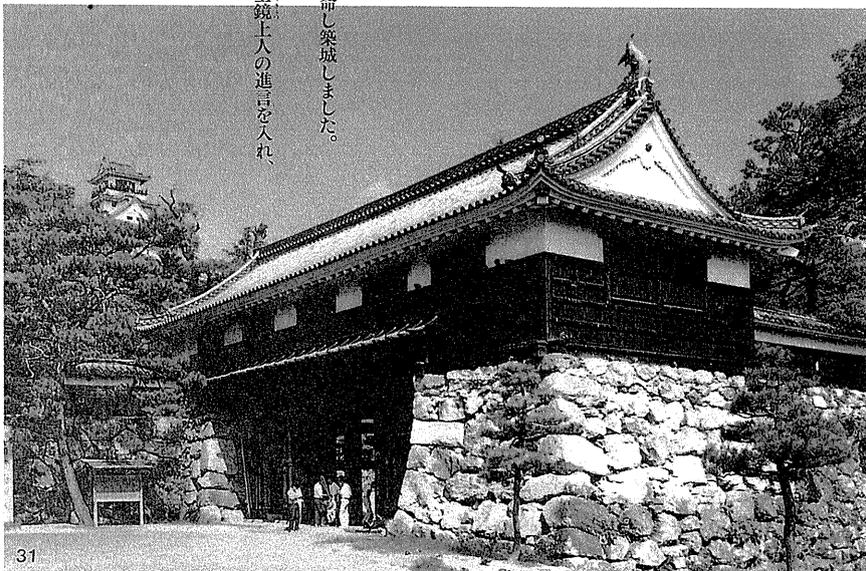
藩政時代に、洪水による災害を防ぐために設けられた部署を水丁場といいます。鏡川北岸堤防を12の組に分け、各組ごとに水位を計る標柱を設け、洪水の状況に応じて出動人員を決めたといわれています。また各組は家老を長とした軍隊式の組織でしたが、これは山内家入国当時には長宗我部の遺臣たちが、洪水の際に堤防を決壊させる恐れがあったからだといわれています。



山内一豊の妻の像

一豊の妻は、近江の浅井氏の家臣若宮喜助の娘で、天正元年(1573)頃結婚したといわれています。一豊が羽柴(豊臣)秀吉に仕えてまだ一介の下級武士であったころ、貧困のなか彼女が鏡箱からヘソクリ10両を取り出し名馬を買わせた話は有名。一豊自身も優れた武将でありましたが、土佐国主になれたのは妻の内助の功も大きかったといわれています。

高知城



百々越前邸跡

百々越前(1546~1607)は近江国犬上郡百々村の出身。織田家に仕えていましたが、関ヶ原の戦で信長の子秀信が「石田三成についたため、越前も罪を受けました。しかし名築城家であったので許されて山内一豊に任せ築城総奉行となり高知城を築きました。越前町の名は百々越前がこの地に居住したことに由来します。



植木枝盛邸跡

枝盛(1857~1892)は自由民権論者。独学で西洋思想を勉強するとともに、新聞等に投書していましたが明治9年(1876)言論統制にふれ、2ヶ月間投獄されました。その後、立志社に入り「立志社建白」作成に参加しました。雄筆、雄弁で多くの人に感銘を与え、彼の著には「民権自由論」「天賦人権論」「植木枝盛日記」等があります。



野中兼山邸跡

兼山(1615~1663)は、行職につき、以後約30した。その功績は、壱・港湾の整備、郷士の取にまがります。しかしみに耐えかねた民衆のちによって寛文3年(1663)に没した。



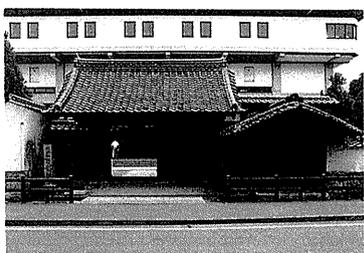
山内神社

山内神社は、15代藩主7月の空襲で社務所を山内家代々の刀剣、刀



福岡孝弟誕生

孝弟(1835~1919)は、命により後藤象二郎とに成功をおさめた哲文の起草に参画。會議ヲ興シ云々々の修も板垣退助と共に藩兵



致道館跡

幕末まで藩学を中心となつた教授館が、時代の変化により次第に衰え、土風を確立する必要もあつて設置されたのが致道館です。文久2年(1862)山内容堂の志をついだ豊範が建てたもので、初めは文武館といわれ、15歳~29歳は文武を必修、30歳~39歳は文武のうち好むものを選択させ、藩士の教育をおこないました。

